

令和4年度第1回佐用町総合教育会議 会議録

◎日時 令和4年6月28日（火）午後3時00分開会

◎場所 佐用町役場3階 301会議室

◎出席者

佐用町	町長	庵途 典章
	総務課長	幸田 和彦
	健康福祉課長	木村 昌子
佐用町教育委員会	教育長	浅野 博之
	教育委員	岡本 正
	教育委員	花尾 睦明
	教育委員	岡田真希子
	教育委員	樫本明日香
	教育課長	宇多 雅弘
	生涯学習課長	谷邑 雅永
	教育課企画総務室長	間嶋 節夫
	教育課教育推進室長	西川 典男
	教育課西はりま天文台公園長	船曳 英司
	教育課学校給食センター所長	山崎 二郎
	生涯学習課生涯学習推進室長	吉田 美恵
	教育課企画総務室係長	篠倉 崇泰

◎会議日程

1. 開会

2. あいさつ

3. 協議・調整事項

(1) 佐用町の子育て支援施策について

(2) その他

4. 閉会

1. 開 会

生涯学習課長

ただ今から、令和4年度第1回佐用町総合教育会議を開催いたします。

2. あいさつ

生涯学習課長

初めに、庵途町長からごあいさつを申し上げます。

町 長

今年は、早々と梅雨明けが宣言されましたが、梅雨自体がなかったような気がします。関東方面では連日の猛暑に、報道では熱中症の注意が呼びかけられている状況です。

梅雨がないということは水不足にも繋がる訳で、町内でも田植えに苦慮されたようです。蛇口をひねれば水が出るのが当たり前と思っていますが、このまま晴天が続けば、飲料水の確保も非常に心配しています。一方、町内には13箇所の取水場と、総延長500キロメートルを超える水道管を敷設していますが、これら設備の維持管理も今後の大きな行政課題であります。

今日の午前中、日本語学校の入学式が行われました。コロナで渡航できず季節外れとなりましたが、バングラディッシュをはじめインドネシア、ネパール、ミャンマーから53人が入学しました。卒業後は大学や専門学校に進学して、日本社会で活躍したいと誓っていました。苦労しながらも異国の地で学ぼうとする若者たちの姿に、感銘を覚えたところです。

本日は、佐用町の子育て支援施策についてご報告します。町では、行政サービスをはじめ教育・福祉においても独自の施策を導入するなどその充実に努めてきましたが、更に充実を望む声があり、今後、現状を維持しながら要望に応じていくことが課題となります。

本日は、皆様方の忌憚のないご意見をお聞かせください。

生涯学習課長

続きまして浅野教育長、ごあいさつをお願いします。

教 育 長

今朝の新聞に兵庫県の教員不足が載っていました。県では、今なお110人の欠員があり、これは非常勤を常勤に換算した話なので実際にはもっと多くなります。幸い佐用町では何んとか配置できていますが、毎年、再任用制度を活用するなど苦慮しているのが実情です。一方、佐用町は他市町出身者が多く、3～4年で地元へ帰るため、毎年のようにその補充が必要となるのも特徴です。

また、最近は教育学部を出ても教員を目指す者は半分以下で、更に採用試験の合格者も少ないことから教員不足を招いています。こうしたことは全国的な課題でもあり、国における抜本的な改善策が望まれます。

こうした状況ではありますが、今後も魅力ある学校現場づくりに努め、子どもたちに質の高い学習機会を保証していきたいと考えております。

3. 協議・調整事項

生涯学習課長

続いて、協議・調整事項に入ります。

本日のテーマは、「佐用町の子育て支援施策について」ということで、健康福祉課長から、町の子育て支援施策の紹介に併せて、普段から就学前の子育て世代

の方々と関わる中で感じていることや課題について提起していただきます。

なお、以降の進行は慣例により教育長にお願いします。

教 育 長

それでは、健康福祉課長より「佐用町の子育て支援施策について」の説明をお願いします。

健康福祉課長

保健師として永年勤めてきましたが、いろいろな人と話をさせていただく中で、最近特に感じていることを含め、町の子育て支援施策についてご紹介します。

昨日、久しぶりに4か月児健診に出務しましたが、4か月くらいになると母親も子育てに少し余裕が出てきて、とてもいい顔をされていました。

しかし、子どもが大きくなるにつれて、子どもを預けて働きに出る親が増えていますが、そうすると親もだんだん余裕が持てなくなり、少しずつ課題が出てきます。

子どもは1歳くらいになると、スマートホンの動画を見せれば操作を覚え、大人しく長時間見入ってしまいます。親にすれば子どもが静かにしているのもそれでいいと思っていますが、この時期に最も大切な親子のコミュニケーションが不足してしまいます。そのため、大きくなって他人とのコミュニケーションがとりづらい子が増えています。動画に夢中になり、親のいうことに反応しなければ親も怒るようになり、ますます子育てが難しい方向へと進んでいきます。

幼児期における親の接し方は非常に重要で、私たちも各種健診を通して少しでもそのお手伝いができればと取り組んでいるところです。

佐用町でも、少子高齢化が急速に進んでいます。平成元年度は200人の出生数だったものが、平成17年の町合併時には150人になり、平成24年度には100人を切りました。そして、昨年度は56人まで減少しています。

一方、少子化となり私たちが一人ひとりの健診などに関わる時間が増えたことで、早くからその成長を見守ることができ、心理士や精神科医への相談業務など専門的なフォローも充実してきました。子どもの魂100までと言いますが、社会生活をうまく送るための土台作りはこの幼児期にあります。特に、3歳までは自己肯定感を育む大切な時期なので、「甘やかす」のではなく「甘えさせる」、おもちゃを与えるのではなく少しでも抱っこして親子のスキンシップをとることが大切です。忙しい時に「あとでね。」と言ったときは必ず後で聞いてあげることも大切です。

次の3歳から6歳の段階では、しっかりと生活習慣やルールを守ることが大切で、安定した生活を送ることで、後々の勉強への意欲にもつながっていきます。もう手遅れと思う方もありますが、諦めずにやり直していただきたいと思えます。

(別添資料により関連施策を説明)

教 育 長

説明が終わりました。

資料として、住民課所管の医療費無料化事業や教育課、生涯学習課の事業も

つけていますのでご参考にしてください。

ご意見・ご質問がございましたらお願いいたします。

教 育 委 員 佐用町の施策で、他市町と比べて特徴的なことはありますか。

健康福祉課長 子どもの数が少ないので、一人ひとりに時間をかけ丁寧な検診ができています。そのため、早期発見に繋がります。県下でも要フォロー児が多いのも特徴です。検診では半分くらいの子どもが要フォローになっています。

教 育 委 員 要フォロー児が多いのは、丁寧にみるからだけですか。

健康福祉課長 それもありますが、原因ははっきりしていません。

教 育 委 員 他府県から兵庫県に移り住まわれる方で、明石市に住む方が多いと聞きます。明石は子育てに非常に手厚いと聞きますが、佐用町の手厚さと違いがあるのでしょうか。

健康福祉課長 明石市は、他市町に先駆けて子どもに対する施策に取り組んできました。神戸市に近いという立地条件もあるかと思いますが、それぞれ独自の施策を実施しています。

教 育 委 員 都市部では働くために預けていますが、佐用町は預けるために働いているとよく聞きます。保育料の無償化で預けやすい環境ではありますが、大事な幼少期に親を中心にした考え方はどうかと思います。親の教育も大事だと思います。

健康福祉課長 近所に同年代の子どもがいないことから、保育園で集団生活を送らせたいと思う親御さんもあります。家庭の事情はそれぞれ違いますが、子どもの成長にとって適切な預けかたを選択していただきたいと思っています。

町 長 国では、出生率を上げることや、待機児童をなくすこと、また、保育所など子育て施設の充実を掲げますが、なかなか出生率は回復しません。各種施策や施設の建設に多くの予算がかけられていますが、3歳までは親の下で子育てができる環境づくりに投資することが子どものためにも、将来の社会のためにもなると思います。

統計的に、子どもを育てている親は無職と捉えていますが、私は、無職ではなく子育てをする一番重要な仕事を担っていると思います。以前、そんなことを国の担当者に言ったことがあります。子育てを仕事と捉え、経済的な補償の対象としていいのではないのでしょうか。

子どものために、何が一番大事なのかを考え直すべきかと思っています。

教 育 長 全国的に出生率は低いですが、佐用町では一人っ子は少ないように思います。実態はどうですか。

健康福祉課長 出生率は、独身や子どものない家庭も含めた割合になります。佐用町ではそうした人数も多く、反対に子どものある家庭は3人以上の家庭が多いのも特徴です。

教 育 長 佐用町の子育て支援施策は手厚く、充実していると思いますが、親の子育ての面では驚くことがあります。

レストランで走り回る子どもに対して、親が怒るのではなくスマホのアプリに出てきた鬼の顔を見せて怒ってもらう親や、保育園の送迎で、子どもの荷物を全て親が持つ場面を見ると、親としてすべきしつけや優しさの履き違いを感じます。

健康福祉課長 気ぜわしく巡る現代社会の中で、つい自分がするほうが早いからと効率的に考える流れになっているように感じます。

教 育 委 員 現在は、保育料の無償化など制度面でも手厚い環境が整っています。しかし、人として自己肯定感や自己有用感を育成していくのは教育であり、一番身近な親の接し方が重要になると思います。自分の親が自分を認めてくれる、話を聞いてくれることは、子どもにとって安定を得る重要な関わりだと感じます。

健康福祉課長 家庭ではユーチューブを見る時間を決め、目と目を合わす時間を増やしてほしいと思います。それだけでも自己肯定感の醸成に繋がります。

教 育 委 員 子どもの健診は、全員が受けていますか。

健康福祉課長 健診は100%です。しかし、その後の相談になると受けない人もあるので、訪問をしています。

教 育 長 健康福祉課長から、「甘えさす・甘やかす」の違いの話がありました。可愛がることで甘やかしている場面もあります。

以前、都市部から佐用にきた歯医者さんから、都市部に比べて子どもの虫歯が多いと聞きました。祖父母がおやつを与えていたようで、可愛がる行動が実は甘やかしていた例です。

健康福祉課長 甘えさせ方も一つ間違えると甘やかすことになります。十分な愛情をもって接するのが甘えさせることで、嫌われないようにとか、黙らせるようにすることが甘やかすことだと思います。祖父母から学び取ることは多いし、祖父母がいることの良さも家族で認め合い、家族ぐるみの子育てが大切だと思います。

教 育 長 他にご意見・ご質問はございませんか。なければ、次に進めさせていただきます。

教 育 長 その他でございます。
各課・各室から、その他の協議調整事項がございましたら、お願いします。

4. 閉 会

教 育 長 ないようですので、これをもちまして第1回総合教育会議を閉会といたします。
長時間のご審議、ありがとうございました。

次回は12月の開催となりますので、よろしく申し上げます。

閉会 午後4時19分